

遷喬 まちづくり通信

第 23 号
令和元年 12 月
遷喬地区
まちづくり協議会

お年寄りにやさしい
まちづくり部

まちなか歩き

県美術展の観覧

九月一日

大和谷 朝

九月も中旬となり、ようやく秋らしくなってきました。

芸術の秋、今年も恒例となつています。鳥取県美術展覧会を鑑賞するため、会場の鳥取県立博物館に向かいました。参加者は十四人、見込みよりちよつと少ない人数ですが街中をぞろぞろ歩くにはちょうど良い人数（負け惜しみです）。澄み切った青空の下、智頭街道からお濠端に、そして県立博物館へと、三々五々話をしながら、きよろきよろ廻りの店や家を見ながら歩きました。

でも、会場には沢山の人が観覧に来ていらつしやいます。今年の展示作品数は、洋画七五

日本画二八点、版画十六点、彫刻十五点、工芸三八点、書道一八点、写真一〇九点、デザイン三四点でした。

遷喬地区関係の方は、毎年のことですが、洋画部門で坂尾哲夫さん、書道部門で川木圭子さんの作品が展示されてい

ました。自分もこんな活動ができれば、こんな作品が作れたら楽しいだろうな、いいなあと思いがら鑑賞させていただきまし

た。まちなか歩き参加者の皆さんも、そのようなお気持ちだったと思います。ただ、素人の個人的感想としては、書道については展示数も多く、何よりも私

まち中歩きに参加して

山口 安子

正式名称「東部環境クリーンセンターリファレンスいなば」の見学に二二名方の中に入れていただき

ました。テレビ等では時々ゴミ処理の様子を見て大変な仕事だと認識はしていたけれど実際にその場に行つて見ると二五



に埋め立てるそうです。中の汚水が流れ出ない様にしてあるとはいえ、なんだか心にかかるお話し

でした。その他に工作室や再生品の展示コーナーとか住民参加型になつていて誰でも楽しむ事が出来る施設になつていました。

最近のテレビ新聞等でしきりに海洋汚染のこととか言われて

います。海洋生物の魚とか哺乳類の体内には餌と間違えてプラスチックの破片等が入っているそうです。いずれ悪循環で人間に災いをもたらすことでしょう。私たちは子供の頃、豆腐は鍋を持って買いに行き、野菜は捨てる部分は畑に穴を掘つて埋め、魚の骨やアラは犬猫の餌になりました。今では、スーパーに買い物に行けばプラスチック発砲スチロール、ラップで包装されて衛生的

ですがみんな使い捨てになつて

います。人間は海からの恵みの魚や海藻と切つても切れない生活をして

ています。海や川が汚染されると人間の寿命より長く地球に残留するそうです。せめてゴミの回収の日には心してきちんと分別する事を心がけなければと思

いました。ポイ捨てとか心無い行動で次世代に禍根を残さない様にしたいと思